

多古町×JAF 交通安全ふれあい広場 in 多古

8月9日、道の駅多古を会場に一般社団法人日本自動車連盟(JAF)千葉支部と多古町がお互いの活性化を目指して締結した「包括協定」に基づき、交通安全の啓発イベントが開催され、タイヤの空気圧等の点検やシートベルトを着用しての衝突衝撃体験、簡単な運転適性診断などがすべて無料で行われました。

「普段、自分ではなかなか車の点検はやらないですね。車検やガソリンスタンドでやってもらう程度です。こういった公共の施設において点検ができるというのは大変いいことですし、特に遠出をしたときはなおさらです。安心して運転できますからね」と、タイヤの空気圧とエンジンルームの点検を受けていた埼玉県からのご家族に感想をうかがうことができました。これからも、町は協定に基づきさまざまな活動を展開していく予定です。



ロードサービス隊の説明に子どもも真剣



地域防災力の要 ～多古町消防団～

ジリジリと容赦なく照りつける日差しと陽炎が立ち上るほどの気温となった8月3日、多古町中の消防団員513名が早朝からコミュニティプラザみどりの広場に集結し、恒例の消防団夏季訓練が開催されました。

消防団は、各地域において災害が発生した際いち早く現場に駆けつけ住民の生命と財産を守るための初期活動をする組織であり、団員一人ひとりがこのことを意識し、災害へ備えることが求められます。夏季訓練では、小型ポンプ操法の実技や隊列行進などが行われ、日頃からの訓練の成果をうかがうことができました。



地域の繋がりや絆の強さを感じた染井の祭り

毎年、お盆前の土曜日に行われる染井地区の祭り。8月9日に開催され、今年で何と33回目を数えるこの祭りは、染井で生まれ育ち仕事や結婚などの事情で地区から出て行ったけれど、お盆の頃には実家に帰ってくる。そんな人たちが地区の子どもたちを楽しませるために始まったもので、以前は花火大会や盆踊りをやっていたこともあったそうです。

染井地区には昔からお囃子が伝えられてきたという背景の中で、今から10年ほど前にその当時祭り好きだった人たちが集まって「お囃子があるならば山車も作ろう」ということになり、年々少しずつ作り足しながら現在のような山車になったとのこと。

狭い道を巧みに操られながら塀や垣根、電柱を避け山車は地区の中を進み、御祝儀をもらった家の前では、踊りも披露されます。

正午過ぎから夕方6時頃までは地区内を山車が行き来し、夜にはお寺の境内で地域の方々が運営するカラオケ大会や、焼きそば、かき氷、ヨーヨーすくいなどが用意され、子どもから大人まで地域みんなが祭りを楽しみました。



町の出来事や頑張っている皆さんを紹介するアラカルトコーナー。
このコーナーでは、皆さんからの情報をお待ちしています。
〒289-2292
多古町役場総務課広報係 ☎76-2611



今回も多古米が使われました — WORLD SUSHI CUP JAPAN2014 —

8月20日から東京ビッグサイトで開催された第16回ジャパン・インターナショナル・シーフードショーの会場内において一般社団法人国際すし知識認証協会主催のWORLD SUSHI CUP JAPAN2014(スシカップ)が同時開催されました。日本や海外で活躍する寿司職人が参加して開催されるスシカップ自体は、昨年から始まり2回目。昨年に引き続き競技用には多古米が使われ、選手たちは基本的な調理技術を競う「江戸前寿司部門」と盛り付けや独創性を競う「創作寿司部門」において2日間にわたり調理技術、衛生技術や独創性を競い合いました。

シンガポールから選手として出場し、現地の日本食レストラン「山川」で多古米を使って腕を振るうゲイリー・ロー氏、スシカップ大会の会長である風戸さんに多古米のことや、日本の米を世界に伝えるにはどうしたらいいかなどについて話を聞きました。



町と多古米をPR

シンガポール日本食レストラン「山川」
ゲイリー・ロー氏

多古米は「very nice」だよ！今、シンガポールで使っている多古米は味がとてもよく、寿司に適していると思います。粘りが強すぎてもあまりよくないけど、適度な粘り気があってとても良いと思いますね。

スシカップ大会会長
風戸さん



特に生魚を美味しく安全に食べるには、抗菌力を保つような粘土質の高い米でないとダメ。多古米のように粘り気がある米は、創作寿司のようにソースをかけるものには向かなくても、握り寿司となれば「やっぱり違うな」ということがみなさんよく分かっている。どんなに質の高い米でも「研ぎ方」や「炊き方」「酢の合わせ方」などの技術が伴わなければ宝の持ち腐れ。これから日本の米を海外に伝える(売っていく)には、ただ美味しいだけでなく、「なぜこの米が必要なのか」ということが重要です。